

製品名: KV1.1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13159**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	57kDa

抗原情報

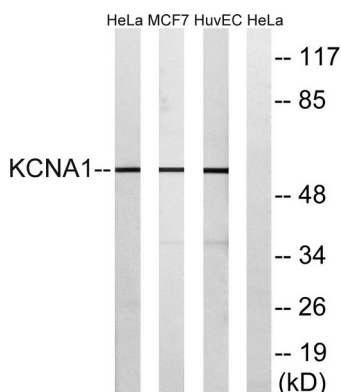
遺伝子名	KCNA1 KCNA1; Potassium voltage-gated channel subfamily A member 1; Voltage-gated K(+) channel HuK1; Voltage-gated potassium channel HBK1; Voltage-gated potassium channel subunit Kv1.1
別名	
遺伝子 ID	3736.0
SwissProt ID	Q09470
免疫原	抗血清はヒト KCNA1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 256-305

背景

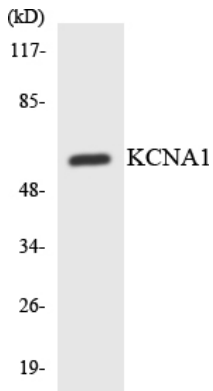
この遺伝子は、ショウジョウバエの Shaker チャンネルと系統発生的に関連する電位依存性遅延型カリウムチャンネルをコードしています。コードされているタンパク質は、6つの推定膜貫通セグメント (S1~S6) を持ち、S5 と S6 の間のループがポアを形成し、保存された選択フィルターモチーフ (GYGD) を含みます。機能的なチャンネルはホモテトラマーです。チャンネルの N 末端は、チャンネルの不活性化特性を変更し、発現レベルに影響を与える β サブユニットと関連しています。チャンネルの C 末端は、チャンネルの標的化を担う PDZ ドメインタンパク質と複合しています。この遺伝子の変異は、周期性運動失調症を伴うミオキミア (AEMK) と関連付けられています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: KCNA1 の欠陥は、エピソード性運動失調症 1 型 (EA1) の原因です [MIM: 160120]。発作性もしくはエピソード性運動失調性ミオキミア (EAM) あるいは発作性運動失調性神経ミオトニーとしても知られています。EA1 は、短時間の失調および構音障害を特徴とする常染色体優性疾患です。発作中および発作間の神経学的検査では、末梢神経から生じる遠位筋の自発的な反復放電 (ミオキミア) が示されます。眼振は見られません。疾患: KCNA1 の欠陥がミオキミア孤立性 1 型 (MK1) [MIM:160120] の原因です。ミオキミアは、筋線維群の自発的な不随意収縮を特徴とする疾患で、皮膚の虫様運動として観察されます。筋電図検査では、通常、高バースト内頻度の自発的な少数および多重放電 (ミオキミア放電) を伴う持続的な運動単位活動が示されます。孤立した自発的な筋けいれんは多くの人に起こりますが、重大な意味はありません。ドメイン:N 末端はチャンネルの不活性化速度の決定に重要な役割を果たす可能性があり、一方、尾部はチャンネル活性の調節や特定の細胞内区画へのチャンネルの標的化に役割を果たしている可能性があります。ドメイン:セグメント S4 はおそらく電圧センサーであり、3つおきの位置に一連の正に帯電したアミノ酸があることが特徴です。機能:興奮性膜の電圧依存性カリウムイオン透過性を媒介します。膜を挟んだ電圧差に応じて開構造または閉構造をとると、タンパク質はカリウムイオンが電気化学的勾配に従って通過できるカリウム選択性チャンネルを形成します。PTM:Cys-243 がパルミトイル化されており、膜標的化に必要な可能性があります。RNA 編集:部分的に編集されています。RNA 編集率は、尾状核では 17%、脊髄では 68%、髄質では 77%と変化する。類似性: カリウムチャンネルファミリーに属する A (Shaker) サブファミリー。サブユニット: カリウムチャンネルタンパク質のヘテロ四量体。DLG1、DLG2、DLG4 の KCNAB2 および PDZ ドメインに結合する。

研究分野

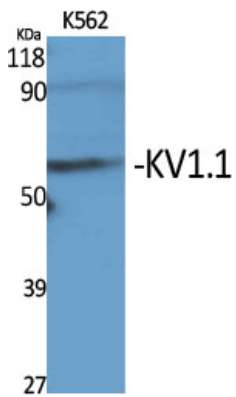
画像データ



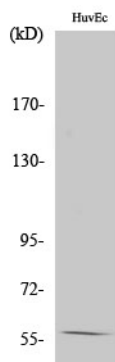
KCNA1 抗体を用いた HUVCEC、MCF-7、および HeLa 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。



KCNA1 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



KV1.1 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



KV1.1 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析